

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077900159		
法人名	医療法人 福田病院		
事業所名	グループホーム とまと		
所在地	福岡県三潴郡大木町大字大角1133-3 (電話) 0944-75-2345		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 9 日	評価結果確定日	令和 3 年 3 月 29 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

各居室に担当職員を配置、センター方式を活用し、細やかなアセスメントを実施している。担当入居者とよりよい信頼関係の構築を図るよう努めている。入居者懇談会を年に数回実施し、食事・入浴の希望やその他要望を日々の生活に反映している。ケアプランでは本人の要望、家族の要望を取り入れ、生活リハビリや機能訓練を実践している。また、利用者の健康を維持できるよう、週に1回看護師の訪問、毎週月曜日に主治医の往診を受けている。職員においては、毎月テーマを変え勉強会を実施し、さらなるレベルアップに努めている。明るく開放的な生活空間であり、2ユニットの入居者が交流できる環境である。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 2 月 4 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体法人が総合病院であり、医療との連携が構築されている点は特記すべきである。グループホーム2ユニットは平屋で、共用部分は事務所カウンターから全体が見渡され、介護上死角が少ない構造になっている。中央部分は間仕切りがあり、用途に応じて変更が可能な構造である。従って、利用者、職員共に親しく、家族的雰囲気醸成されている。ソフト面においても来訪者への挨拶、おもてなしの姿勢は研修と現場実践で力が注がれている。管理者、職員共に資質が高く利用者、家族の視点で常に介護を志向している点を付言しておきたい。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、意思統一を図っている。入居者懇談会やアセスメントを通し、本人本位に基づく暮らしの支援をしている。	事業所独自の理念を掲げ、“地域の一員として生活できるよう（地域との）交流はかる。”という地域密着の視点を重視して、朝の引き継ぎや現場実践を通して管理者が職員に率先垂範して理念の具現化をはかっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の祭りや行事に参加している。年2回の茶話会、夏祭り、クリスマス会に地域の方を招いている。今年はコロナウイルス感染防止のため地域の方は不参加である。	町内会に加入し、事業所主催の夏祭り、クリスマス会、七夕での幼稚園児との交流や地域住民が作物を携えて訪問する等地域とのつながりは密接である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町で開催される認知症サポート講座に管理者が参加。地域の公民館に出向き、認知症の方の行動パターンなどを一緒に共有し、理解を深めていただくよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し入居者の概要・介護度・年齢・活動状況・ヒヤリハット・苦情等の報告を行い、市町村代表や区長、民生委員、家族代表と意見交換を行っている。又、その意見を運営に反映させている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、6回のうち1回のみ開催であった。	運営推進会議は二ヶ月に一度開催され、利用者、利用者家族、行政職員、民生委員、地域代表が参加している。事業所での現状を報告して意見交換を行っている。事例として外出に力を注ぐようにという意見に対し、担当職員を選定して取り組み成果をあげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年4回行われるケアマネ連絡会に管理者が出席し、情報交換を行っている。また運営推進会議には行政担当者が出席、助言を得ている。	ケアマネ連絡会が年四回開催され意見交換が行われている。管理者が認知症サポート高齢者研修の講師をつとめており、行政との連絡、相談を通しての連携は密接である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1、2回職員会議時に勉強会を行っている。身体拘束マニュアル、手引きも毎回見直し、全職員が閲覧できるところに配置している。玄関は夜間のみ施錠を行い、日中は開放している。	日中、玄関、居室、庭への出入り口は施錠されていない。利用者の外出傾向を全職員が把握しており随時適切な対応がなされている。拘束に関する研修は定期的になされている。当該事業所では、身体拘束が今迄になされた事例がない。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、職員会議時発表する事で他の職員も虐待防止について学んでいる。関係資料は事務所に配置し、必要時には情報提供や活用に向けて支援ができるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施し、職員会議時発表する事で他の職員も権利擁護について学んでいる。関係資料は事務所に配置し、必要時には情報提供や活用に向けて支援ができるように努めている。	制度に関しての説明は利用者、家族に来訪時になされている。研修に関する記録が残されており仕事上参加できない職員についても伝達研修が行われている。特に成年後見制度に関しては、全職員に対する制度の理解を深める為に今後家庭裁判所や行政の活用を検討している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や料金改定時には十分な時間を確保し説明を行い、理解・納得していただき同意を得ている。疑問、質問等は随時受け付けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議にて、幅広い意見が聞けるように毎回違った入居者ご家族に参加依頼、協力を得ている。又、入居者懇談会、家族会を開催し、入居者や家族の要望も取り入れている。今年はコロナウイルス感染予防の為、運営推進会議は1回のみ開催、家族会は中止とした。	利用者、家族と管理者、職員との相互の信頼関係は深く、特に利用者、家族への挨拶と迎え入れのスキルはよく学習されており意見の吸い上げに功を奏している。事例として、おやつ時のコーヒーの提供、服装、ハンドクリームに至る迄、その意見が反映されている。また、家族会が年二回開催されており、管理者、職員との意見の発出に寄与している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議時に職員の意見・要望を提案する機会があり、運営に反映している。また、日々の業務の中でもコミュニケーションを図るよう心掛け、意見を聞き出すようにしている。	管理者が勤務体制に組み込まれており、現場実践の中で職員の意見を聞き運営に取り入れている。事例として介護予防体操をはじめ調理器具、花見弁当や花見パーベキュー等レクリエーションにも職員の意見を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を実施している。また、家庭環境に応じて夜勤回数の希望を募るなど、労働条件の整備に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用時は制限を設けず、人柄や働く意欲のある人を重視している。また、幅広い年齢層の職員を採用している。研修や資格取得のためのバックアップ体制を取り、社会参加や自己実現の機会が得られるようにしている。	職員の構成は男性2名、女性13名で、年齢構成は24歳から67歳である。定年はあるが、希望すれば一年更新で継続雇用が可能である。資格取得、研修をバックアップし昇給する体制が整っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳を尊重することを理念に掲げ、人権教育、同和問題について内部研修を実施。研修内容は全職員で共有できるように、報告の場を設け配布している。	研修は、管理者、職員の全員参加が原則で実施されている。勤務者の都合で、研修に参加できない職員には資料を配布し、管理者が適時レクチャーを行って内容把握につとめている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を共有すると共に研修の参加をよびかけている。また、職員会議にて研修報告の場を設けている。自己啓発のための資格取得を志す職員に対しては、勤務日程の調整を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接している特別養護老人ホームの慰問に参加している。また、入居者と相互訪問し交流を図ることでサービスの質を向上させる取り組みをしている。今年度はコロナウイルス感染防止の為中止とした。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時本人より希望や要望を時間をかけて尋ねよう努めている。また、新しい希望や要望が見つかった場合には家族に報告し、解決を図るよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	パンフレットの配布や見学をしてもらい、雰囲気味わってもらっている。相談時や面会時に家族の意向を確認している。入居後しばらくは要望等に対する報告を随時行い、家族との関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望や見学時に本人や家族の希望を踏まえ、必要としている支援を見極め、他のサービス利用を含めた対応・説明を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴に応じて園芸や野菜の収穫・野菜そろえや洗濯物たたみ・食器拭きなど、職員と一緒に作業を行っている。日常的に共に過ごし支えあう関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回家族も参加して頂く催し(夏祭り・クリスマス会)を開催し、入居者と過ごして頂く事により、共に本人を支える機会を作っている。また自宅へ時折帰られる入居者もいる。今年度はコロナウイルス感染防止の為、中止とした。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より通われている理容室へ出かけ、馴染みの方との関係継続の支援に努めている。入居者の友人が訪問される事もあり、馴染みの人との関係継続ができています。今年度はコロナウイルス感染防止の為、交流を中止とした。	管理者、全職員は利用者の生活歴を通して馴染みの人と場所を把握している。馴染みの人との相互訪問がなされている。利用者の要望で、氏神様への参拝、ショッピングタウンへの買物や自宅への帰宅等利用者個々が馴染みの場所との関係が継続できるように配慮している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の些細なトラブル等もミーティングにて情報共有し、関係を把握している。また、テーブル席の配置等考慮している。レクリエーション活動の参加の声掛けを行い、入居者が孤立しないよう支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所で契約が終了しても、同法人内の病院に入院であればお見舞いに行っている。入居者も同行し面会する事もある。今年度はコロナウイルス感染防止の為控えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりに担当職員を配置、センター方式を活用し、本人の意向の把握に努めている。年3回の利用者懇談会での意見や要望も日々の暮らしに反映している。	入居時、家族や本人からの意向の聞き取りを行い、センター方式を使用してアセスメントを行っている。入居後も家族や職員等に聞き取りし要望に対して利用者の思いの把握に努めている。これまでの生活歴から外出や食事など、希望に沿った個別の支援に繋げている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係者より生活歴や環境、サービス利用の経緯等を尋ね把握に努めている。入居前施設や自宅に面談に向き、本人の状態把握にも努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり24時間の過ごし方が一目で分かる生活日誌があり、毎日のバイタルチェックや過ごし方、状態変化等を記載している。また、朝・夕の申し送りにて細やかな心身状態も情報共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、職員の意見を反映した介護計画を作成している。各入居者に担当職員がおり月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回または状態の変化に応じ介護計画を見直している。	担当制により、本人・家族・職員の意見など把握した情報を職員で共有する。関わる訪問看護師などの専門職や家族からの聞き取りなども踏まえて月1回のモニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しを行う。介護計画の目標に応じた個別の実施記録表に毎日記録し、確認している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活日誌に日々の様子やケアの実践・結果、気づきを記入し、情報を共有している。また、対応方法の変更の場合には、職員が数日間試した事に対して記録を残し、それを基にカンファレンスを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の嗜好を制限をすることなく、入居者、家族の要望に応じている。個別の外出支援の際には家族と一緒にいく場合もある。今年度はコロナウイルス感染防止の為に実践できていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無断外出時の捜索の協力を所轄の交番に依頼している。公民館での行事・活動への参加を行い、地域の方と一緒に活動を行っている。今年度はコロナウイルス感染防止の為実践できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医の確認を行い、現在は同法人の病院受診を受けている。同法人以外にも受診支援を行っている。毎週月曜日に担当医師の往診を受けており、また週に1回看護師が訪問、医療連携を図っている。緊急時の対応もできている。病院受診時の結果は毎月家族への開示をしている。	法人母体が病院であり、殆どの利用者が提携医の往診を利用されている。毎週担当医師の訪問診療、週1回看護師の訪問があり、その都度健康状態の相談ができ、緊急時でも対応できる。他科受診は利用者やご家族の希望を大切にし、家族の付き添いが無理な場合は、職員が付き添い支援を行っている。受診結果の報告は毎月の利用料支払時や電話で情報の共有を行っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の病院看護師と連絡が取れる体制であり、夜間の急変時も指示を仰ぐ事ができる。介護職員が気づいた状態変化はすぐに管理者、病院看護師へ報告し、適切な受診やケアを受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	洗濯物預かり交換のため病室へ立ち寄り、看護師に状態確認、把握に努めている。地域連携室と情報交換ができ、必要時相談できる関係である。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時には法人病院との医療連携体制を図り、重度化した場合や終末期のあり方については、事業所としての方針を入居時に説明し、意向を確認している。状況の変化に応じ随時意向確認を行い、方針の共有を図っている。	重度化した場合や終末期のあり方について「急変時における医療等に関する同意書」を作成して、法人病院との医療連携について本人・家族に説明を行い同意書を得ている。ご家族の意向を大切にしながら、状況変化に応じて、改めて意思を確認している。職員の研修を定期的に行い、職員全員が知識の向上とケアの実践に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について定期的に研修を実施、その都度職員会議にて全職員学んでいる。緊急時の対応マニュアル等、事務所内の目の届くところに配置している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導を受けて火災・災害避難訓練・通報訓練を実施している。訓練後の消防署の講評や事後評価による反省点や気づきを踏まえ、災害時に活かせるよう取り組みを行っている。居室入り口には、個別の誘導方法を明示したプレートを表示している。	台風・風水害・火災・地震マニュアルを作成。消防署の参加もあり、年2回夜間想定を含む火災訓練を行っている。職員全員が災害時対応を身につけられるよう避難訓練など周知している。地域住民の参加の声かけは行っているが、参加は見られていない。居室入り口に、避難確認プレートを下げて避難誘導訓練をしている。非常用食料は事業所内に備蓄されている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方、居室やトイレドアの開閉、写真の掲示など事前許可、好みの服の選択等、きめ細かな配慮と支援にて個人の尊重に努めている。職員ミーティングの中で、接遇や不適切な支援について振り返る機会を持ち、内外の研修機会を確保し、職員の意識を高める取り組みをしている。	定期的に個人情報保護法などプライバシー保護について研修を行っている。トイレの使用時・入室など声かけの仕方、失禁された際のさりげない声かけなど自尊心を傷つけないよう、利用者に対し尊厳を持って対応できるよう日々努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方に情報を伝え自己決定がしやすいような働きかけを行い支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体での援助を心掛け入居者のペースで生活していただいている。職員会議の場で入居者を第一に考えるように伝えている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回外部より理容訪問を受けている。家族、本人より希望がある場合は馴染みの理容室へ家族同伴で支援していただいている。今年度はコロナウイルス感染防止の為理容訪問のみを受けている状況。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所にて手作りの食事の提供している。入居者懇談会にて嗜好や量について要望を聞き取り、職員が献立に反映させている。状況により入居者に料理や後片づけ等の役割を担っていただいている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、外出支援は実施できていない状況。	献立から手作りの食事の提供まで職員が1週間交代で担当。入居者懇談会で嗜好や量について意見を聞き取りして献立に反映している。利用者の方には皮むき・片付けなどお手伝いをして頂いている。中庭に玉ねぎ・サツマイモなど家庭菜園で収穫して調理している。	



項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量、水分量を記録している。入居者の嚥下状態に応じて刻み食・ミキサー食等の提供を行っている。また好みの物が摂取できるように家族の協力を得ている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、支援が必要な入居者には一人ひとりにあった口腔ケアを支援している。義歯洗浄も行い清潔保持に努めている。また、訪問歯科医による指導・助言を受け、支援に活かしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個別の排泄パターンの把握やサインを共有。日中はトイレでの排泄を基本とし、さりげない声掛けや誘導により、排泄の支援をしている。パットの使用も各人の状況により使い分け、不快感を和らげ清潔を保っている。	トイレは各ユニットに3ヶ所ずつ設置され、職員は排泄チェック表に個別に毎日記録して共有することで、個々の利用者の排泄パターンを把握しており、日中はオムツをしていてもトイレでの排泄を基本として自立排泄を促しながら、声かけ・介助をしている。入院されてパッドを使用していた方がトイレ誘導することでパッドの使用がなくなるなど、改善が見られている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて確認し、牛乳や発酵乳製品、繊維物を食事に取り入れれたり、定期的に体操・運動を行い自然排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日多くの方が入浴できるよう午前中から準備し、入居者の希望や体調、状況に応じて対応している。週に2～3回は入浴できるよう入居者に意思確認し、入居者の意向に合わせている。2つの浴槽が設置しており、気の合う入居者同士で入浴されることもある。	毎日、午前中から準備し、本人の希望やタイミングを合わせて、週2～3回は入浴できるよう支援している。拒否のある方は無理強いせずタイミングを見計らって声かけをして浴室に誘導している。入浴チェック表を作成して入浴状況を把握して入浴していただくように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、室温、衣類など調整に気を配り、自宅で使い慣れた寝具類を持参して頂き、安眠を確保している。入眠時間や起床時間は本人のペースに合わせており、本人の生活パターンにあわせた援助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能・効果、注意事項等が記載された用紙を個人記録に綴っており、いつでも確認できるように配置している。内服薬の変更については管理者より説明、申し送りにて伝達している。職員は病状の確認に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算プリント、絵・漢字カード、歌詞を見ながら歌を唄うなど、個人に応じた機能が発揮できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には担当者と外出に出かけたり、月行事にて季節の花見やドライブなどの支援もしている。家族の協力も得て、定期的に自宅へ帰られる方もいる。南向きにあるテラスや中庭に車椅子用のスロープが設置され、天気が良い日には外気浴を楽しんでいる。今年度はコロナウイルス感染防止の為外出等は実施できず、中庭・周囲の散歩を行っている。	月行事で季節のお花見、ドライブなど計画している。コロナ禍で、外出はできない状況であり、天気の良い日は屋外のテラスや中庭に出て、日常的に外気に触れ、散歩するなど支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族承諾のもと、自分で少額所持されている方もおられる。金庫でお小遣いを預かっている入居者の方でも、希望時には家族へ確認し、必要に応じて希望の物を購入したりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2ヶ月に一度、写真付きの新聞、担当から日頃の様子を伺える写真を添えた手紙を交互に送っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、日当たりのよいホールは明るくゆりのある広さの開放的な共有空間である。室内の壁には行事の写真が掲示、中庭に面して配置されたソファには、その時々居場所として、豊かな暮らしの語り合いの場となっている。テレビの音量も入居者の希望に応じて調整。気温や湿度に気を払い、定期的に換気や空調管理をしている。	天井が高く、採光がよく、開放感のある落ち着いた空間となっている。毎月、利用者と一緒に制作した季節を感じられる作品が壁に掲示されており、温度・湿度計・加湿器など設置され、リビングには中庭に面してソファが配置、皆でテレビを見たりレクリエーションを行ったり、居心地よく過ごせるように工夫されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った入居者同士が談話したりテレビを見たり自由に出来るようにしている。中庭には椅子を置き日光浴もできるなど仲良く過ごせる場を提供している。</p>		
56	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に馴染みの家具、寝具、家族の写真等の持ち込みをお願いしている。居室入り口の名前プレートの裏面には、個別の状態の応じた避難方法が示されている。</p>	<p>居室内は、使い慣れた衣装ケースや筆筒、寝具、テレビ、ソファなど持ち込まれ、写真や小物などなじんだ物を自由に持ち込んで、飾ったりされており、穏やかに過ごせるように工夫されている。居室の入り口には表札と別に、利用者の写真も掲示されており、自分の部屋とわかるようにされている。</p>	
57	—	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物はバリアフリーで段差がなく、手すりやスロープが設置されている。各居室には名札や写真を飾り分かりやすいようにしている。可能な限り自力での移動、動作を支援している。</p>		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、意思統一を図っている。入居者懇談会やアセスメントを通し、本人本位に基づく暮らしの支援をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の祭りや行事に参加している。年2回の茶話会、夏祭り、クリスマス会に地域の方を招いている。今年はコロナウイルス感染防止のため地域の方は不参加である。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町で開催される認知症サポート講座に管理者が参加。地域の公民館に出向き、認知症の方の行動パターンなどを一緒に共有し、理解を深めていただくよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し入居者の概要・介護度・年齢・活動状況・ヒヤリハット・苦情等の報告を行い、市町村代表や区長、民生委員、家族代表と意見交換を行っている。又、その意見を運営に反映させている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、6回のうち1回のみ開催であった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年4回行われるケアマネ連絡会に管理者が出席し、情報交換を行っている。また、運営推進会議には行政担当者が出席、助言を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1、2回職員会議時に勉強会を行っている。身体拘束マニュアル、手引きも毎回見直し、全職員が閲覧できるところに配置している。玄関は夜間のみ施錠を行い、日中は開放している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、職員会議時発表する事で他の職員も虐待防止について学んでいる。関係資料は事務所に配置し、必要時には情報提供や活用に向けて支援ができるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施し、職員会議時発表する事で他の職員も権利擁護について学んでいる。関係資料は事務所に配置し、必要時には情報提供や活用に向けて支援ができるように努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や料金改定時には十分な時間を確保し説明を行い、理解・納得していただき同意を得ている。疑問、質問等は随時受け付けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議にて、幅広い意見が聞けるように毎回違った入居者ご家族に参加依頼、協力を得ている。又、入居者懇談会、家族会を開催し、入居者や家族の要望も取り入れている。今年はコロナウイルス感染予防の為、運営推進会議は1回のみで開催、家族会は中止とした。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議時に職員の意見・要望を提案する機会があり、運営に反映している。また、日々の業務の中でもコミュニケーションを図るよう心掛け、意見を聞き出すようにしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を実施している。また、家庭環境に応じて夜勤回数の希望を募るなど、労働条件の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用時は制限を設けず、人柄や働く意欲のある人を重視している。また、幅広い年齢層の職員を採用している。研修や資格取得のためのバックアップ体制を取り、社会参加や自己実現の機会が得られるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳を尊重することを理念に掲げ、人権教育、同和問題について内部研修を実施。研修内容は全職員で共有できるように、報告の場を設け配布している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を共有すると共に研修の参加をよびかけている。また、職員会議にて研修報告の場を設けている。自己啓発のための資格取得を志す職員に対しては、勤務日程の調整を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接している特別養護老人ホームの慰問に参加している。又、入居者と相互訪問し交流を図ることでサービスの質を向上させる取り組みをしている。今年度はコロナウイルス感染防止の為に中止とした。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時本人より希望や要望を時間をかけて尋ねよう努めている。又、新しい希望や要望が見つかった場合には家族に報告し、解決を図るよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	パンフレットの配布や見学をしてもらい、雰囲気を感じてもらっている。相談時や面会時に家族の意向を確認している。入居後しばらくは要望等に対しての報告を随時行い、家族との関係づくりに努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望や見学時に本人や家族の希望を踏まえ、必要としている支援を見極め、他のサービス利用を含めた対応・説明を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴に応じて園芸や野菜の収穫・野菜そろえや洗濯物たたみ・食器拭きなど、職員と一緒に作業を行っている。日常的に共に過ごし支えあう関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回家族も参加して頂く催し（夏祭り・クリスマス会）を開催し、入居者と過ごして頂く事により、共に本人を支える機会を作っている。また自宅へ時折帰られる入居者もいる。今年度はコロナウイルス感染防止の為、中止とした。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より通われている理容室へ出かけ、馴染みの方との関係継続の支援に努めている。入居者の友人が訪問される事もあり、馴染みの人との関係継続ができています。今年度はコロナウイルス感染防止の為、交流を中止とした。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の些細なトラブル等もミーティングにて情報共有し、関係を把握している。テーブル席の配置等考慮している。レクリエーション活動の参加の声掛けを行い、孤立しないよう支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所で契約が終了しても、同法人内の病院に入院であればお見舞いに行っている。入居者も同行し面会する事もある。今年度はコロナウイルス感染防止の為控えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりに担当職員を配置、センター方式を活用し、本人の意向の把握に努めている。年3回の利用者懇談会での意見や要望も日々の暮らしに反映している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係者より生活歴や環境、サービス利用の経緯等を尋ね把握に努めている。入居前施設や自宅に面談に出向き、本人の状態把握にも努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり24時間の過ごし方が一目で分かる生活日誌があり、毎日のバイタルチェックや過ごし方、状態変化等を記載している。また、朝・夕の申し送りにて細やかな心身状態も情報共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、職員の意見を反映した介護計画を作成している。各入居者に担当職員がおり月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回又は状態の変化に応じ介護計画を見直している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活日誌に日々の様子やケアの実践・結果、気づきを記入し、情報を共有している。又、対応方法の変更の場合には、職員が数日間試した事の対しての記録を残し、それを基にカンファレンスを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の嗜好を制限をすることなく、入居者、家族の要望に応じている。個別の外出支援の際には家族と一緒にいく場合もある。今年度はコロナウイルス感染防止の為に実践できていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無断外出時の搜索の協力を所轄の交番に依頼している。公民館での行事・活動への参加を行い、地域の方と一緒に活動を行っている。今年度はコロナウイルス感染防止の為実践できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医の確認を行い、現在は同法人の病院受診を受けている。同法人以外にも受診支援を行っている。毎週月曜日に担当医師の往診を受けており、また週に1回看護師が訪問、医療連携を図っている。緊急時の対応もできている。病院受診時の結果は毎月家族への開示をしている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の病院看護師と連絡が取れる体制であり、夜間の急変時も指示を仰ぐ事ができる。介護職員が気づいた状態変化はすぐに管理者、病院看護師へ報告し、適切な受診やケアを受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	洗濯物預かり交換のため病室へ立ち寄り、看護師に状態確認、把握に努めている。地域連携室と情報交換ができ、必要時相談できる関係である。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時には法人病院との医療連携体制を図り、重度化した場合や終末期のあり方については、事業所としての方針を入居時に説明し、意向を確認している。状況の変化に応じ随時意向確認を行い、方針の共有を図っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について定期的に研修を実施、その都度職員会議にて全職員学んでいる。緊急時の対応マニュアル等、事務所内の目の届くところに配置している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導を受けて火災・災害避難訓練・通報訓練を実施している。訓練後の消防署の講評や事後評価による反省点や気づきを踏まえ、災害時に活かせるよう取り組みを行っている。居室入り口には、個別の誘導方法等を明示したプレートを掲示している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方、居室やトイレドアの開閉、写真の掲示など事前許可、好みの服の選択等、きめ細かな配慮と支援にて、個人の尊重に努めている。職員ミーティングの中で、接遇や不適切な支援について振り返る機会を持ち、内外の研修機会を確保し、職員の意識を高める取り組みをしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方に情報を伝え自己決定がしやすいような働きかけを行い支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体での援助を心掛け入居者のペースで生活していただいている。職員会議の場で入居者を第一に考えるように伝えている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回外部より理容訪問を受けている。家族、本人より希望がある場合は馴染みの理容室へ家族同伴で支援していただいている。今年度はコロナウイルス感染防止の為理容訪問のみを受けている状況。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所にて手作りの食事の提供している。入居者懇談会にて嗜好や量について要望を聞き取り、職員が献立に反映させている。状況により入居者に料理や後片づけ等の役割を担っていただいている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、外出支援は実施できていない状況。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量、水分量は記録している。献立によっては刻み食・ミキサー食等を必要に応じて提供している。また好みの物が摂取できるように家族の協力を得ている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、支援が必要な入居者には一人ひとりにあった口腔ケアを支援している。義歯洗浄も行い清潔保持に努めている。また、訪問歯科医による指導・助言を受け、支援に活かしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個別のパターンの把握やサインを共有し、日中はトイレでの排泄を基本とし、さりげない声掛けや誘導により、排泄の支援をしている。パットの使用も各人の状況により使い分け、不快感を和らげ、清潔を保っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて確認し、牛乳や発酵乳製品、繊維物を食事に取り入れたり、定期的に体操・運動を行い自然排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日多くの方が入浴できるよう午前中から準備し、入居者の希望や体調、状況に応じて対応している。週に2～3回は入浴できるよう入居者に意思確認し、入居者の意向に合わせている。2つの浴槽が設置しており、気の合う入居者同士で入浴されることもある。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、室温、衣類など調整に気を配り、自宅で使い慣れた寝具類を持参して頂き、安眠を確保している。入眠時間や起床時間は本人のペースに合わせており、本人の生活パターンにあわせた援助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能・効果、注意事項等が記載された用紙を個人記録に綴っており、いつでも確認できるように配置している。内服薬の変更については管理者より説明、申し送りにて伝達している。職員は病状の確認に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算プリント、絵・漢字カード、歌詞を見ながら歌を唄うなど、個人に応じた機能が発揮できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には担当者と外出に出かけたり、月行事にて季節の花見やドライブなどの支援もしている。家族の協力も得て、定期的に自宅へ帰られる方もいる。南向きにあるテラスや中庭に車椅子用のスロープが設置され、天気の良い日には外気浴を楽しんでいる。今年度はコロナウイルス感染防止の為外出等は実施できず。中庭・周囲の散歩を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族承諾のもと、自分で少額所持されている方もおられる。金庫でお小遣いを預かっている入居者の方でも、希望時には家族へ確認し、必要に応じて希望の物を購入したりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2ヶ月に一度、写真付きの新聞、担当から日頃の様子を伺える写真を添えた手紙を交互に送っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、日当たりのよいホールは明るくゆとりのある広さの開放的な共有空間である。室内の壁には行事の写真が掲示、中庭に面して配置されたソファーには、その時々居場所として、豊かな暮らしの語らいの場となっている。テレビの音量も入居者の希望に応じて調整。気温や湿度に気を払い、定期的に換気や空調管理をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が談話したりテレビを見たり自由に出来るようにしている。中庭には椅子を置き日光浴もできるなど仲良く過ごせる場を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの家具、寝具、家族の写真等の持ち込みをお願いしている。居室入り口の名前プレートの裏面には、個別の状態の応じた避難方法が示されている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで段差がなく手すりやスロープが設置されている。各居室には名札や写真を飾り分かりやすいようにしている。可能な限り自力での移動、動作を支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		